

# 生成 AI 主要ユースケースの変遷：2024 年から 2025 年の展望

Gemini Deep Research

## 1. エグゼクティブサマリー

本レポートは、2024 年から 2025 年にかけて予測される生成 AI (GenAI) の主要利用用途 (ユースケース) トップ 10 の変遷について、市場調査、アナリスト予測、技術動向分析に基づき詳細に解説するものである。

2024 年時点では、GenAI の活用は、ChatGPT のような基盤モデルを利用した汎用タスク処理や、特定の生産性向上ツール (コーディング支援、顧客サービスチャットボット、コンテンツ生成など) の導入が中心であった<sup>1</sup>。特に、開発者の生産性向上 (コード生成) や顧客対応の効率化 (チャットボット) が高い導入率や投資額を示している<sup>2</sup>。

しかし、2025 年に向けて、GenAI のユースケースは大きな変革期を迎えると予測される。技術の成熟 (マルチモーダル能力の向上、AI エージェント技術の発展)、企業における実験段階から本格的な導入・拡張への移行、そして市場への継続的な大規模投資が、この変化を加速する主要因となる<sup>4</sup>。

2025 年には、単なる支援ツールとしての AI から、自律的にタスクを実行する「AI エージェント」の導入が進み、顧客サービスやソフトウェア開発、業務プロセス自動化などの領域で活用が拡大すると見込まれる<sup>5</sup>。また、テキスト、画像、音声など複数のデータ形式を統合的に扱える「マルチモーダル AI」の普及により、データ分析、コンテンツ生成、顧客体験の高度化が実現されるだろう<sup>5</sup>。さらに、汎用モデルから特定の業界や業務に特化した「ドメイン特化型モデル」へのシフトが進み、精度、信頼性、セキュリティが向上することも予想される<sup>8</sup>。

この急速な進化は、GenAI が単なる「ツール」から、企業の基幹業務プロセスに組み込まれた「能力」へと変貌しつつあることを示唆している。初期のツール導入による生産性向上から、より複雑なワークフローの自動化や、高度な分析・意思決定支援へと活用範囲が深化していく。ただし、投資の急増<sup>3</sup>に見合う ROI (投資対効果) の実現や、データプライバシー、セキュリティといった課題への対応<sup>2</sup>は、依然として企業が直面する重要な課題である。

本レポートでは、これらの動向を詳細に分析し、2024 年の現状評価から 2025 年の予測、変化の要因、そして企業が取るべき戦略的示唆までを包括的に提供する。

## 2. 2024 年の GenAI ランドスケープ：ベースラインの確立

2024 年における GenAI の活用状況を理解することは、今後の進化を予測する上で不可欠な基礎となる。このセクションでは、利用可能なデータに基づき、2024 年に最も顕著であった GenAI ユースケースを特定し、その特徴を分析する。

### 2.1 主要なアプリケーションとツール

2024 年の GenAI 市場は、特定の基盤モデルやツールが広く普及し、初期の採用を牽引したことが特徴である。

- **基盤モデルの支配:** OpenAI の ChatGPT は、依然として高い市場シェア (54.96%) を維持しており、テキスト生成、質疑応答、要約といった汎用的なタスク処理において、GenAI の代名詞的存在となっている<sup>1</sup>。これは、多くのユーザーや企業が GenAI の能力を最初に体験する入口として機能したことを示している。Google Gemini も、ウェブトラフィック上のシェアは限定的に見えるものの、Google エコシステム内での広範なリーチ (「AI による概要」機能が 10 億ユーザーに到達) を報告しており、既存プラットフォームへの統合が進んでいることを示唆している<sup>1</sup>。
- **既存ワークフローへの統合:** 人気のあるウェブベースのデザインツール Canva (14.92%) や、オンライン翻訳サービスの DeepL (5.38%) は、AI 機能を積極的に統合し、それぞれの分野でのユーザー体験を向上させている<sup>1</sup>。Canva はテンプレート生成や背景除去、DeepL は多言語翻訳やファイル翻訳機能を提供し、GenAI が既存の生産性ツールやマーケティングツールを強化する形で導入されていることを示している。
- **特化型ツールの台頭:** 特定のニッチなニーズに応えるツールも登場している。特定の性格を持つチャットボットを作成できる Character.AI (3.90%)、ロールプレイングに重点を置く JanitorAI (1.72%)、ライティング支援の QuillBot (1.68%)、高品質な画像背景除去を提供する Remove.bg (1.76%) などが挙げられる<sup>1</sup>。これらは、汎用モデルだけでは満たせない特定の用途に対する需要が存在することを示している。ただし、Remove.bg のように、OS の標準機能として同様の機能が搭載され始めると、2025 年にはシェアが低下する可能性も指摘されている<sup>1</sup>。

### 2.2 企業における焦点：投資対効果と一般的利用

企業レベルでの GenAI 活用を見ると、投資が集中する分野と、実際に広く利用されているユースケースの間には差異が見られる。

- **投資の優先分野:** ISG の調査によれば、企業が最も多くの資金を投じている GenAI ユースケースは、「顧客サービスチャットボット」 (53%)、「ビジュアル/オー

ディオコンテンツ生成」(41%)、「顧客サービスサポート」(41%)である<sup>2</sup>。これらは、顧客接点の自動化や効率化、コンテンツ制作のコスト削減といった、明確な効率性や収益性向上を目的とした戦略的な投資対象となっていることを示している。

- **最も一般的なユースケース:** 一方で、企業内で最も一般的に利用されているユースケースは、「自動化された IT テスト」(43%)、「人事 (HR) サポート」(35%)、「顧客コミュニケーション」(33%)、「文書作成」(31%)、「IT セキュリティ」(30%)となっている<sup>2</sup>。これらは、日々の業務効率化や内部プロセスの改善に直接的に貢献する、比較的導入しやすい領域から活用が進んでいることを示唆している。
- **採用率の高い分野:** Menlo Ventures の調査では、米国の企業 IT 意思決定者における採用率として、「コードコパイロット」(51%)が突出しており、次いで「サポートチャットボット」(31%)、「エンタープライズサーチ+検索」(28%)、「データ抽出+変換」(27%)、「会議要約」(24%)が続く<sup>3</sup>。特に開発者コミュニティにおけるコード生成支援ツールの急速な普及 (GitHub Copilot など) と、社内外のナレッジ活用や生産性向上を目的としたツールの導入が進んでいることがわかる。

これらのデータから、2024 年の企業利用は、ソフトウェア開発や IT 運用、顧客サービスといった分野における生産性向上と効率化に重点が置かれていることが明らかである。特に、ソフトウェア開発においては、ChatGPT や GitHub Copilot の利用率が高く、30%から 42%の生産性向上が見込まれている<sup>2</sup>。

### 2.3 2024 年トップ 10 ユースケース (統合分析)

上記の市場シェア、投資動向、利用状況、採用率のデータを総合的に分析し、2024 年における主要な GenAI ユースケースを以下のように統合・ランク付けすることができる。特定のツール名ではなく、機能的なカテゴリを優先して整理する。

表 1: GenAI 主要ユースケース トップ 10 - 2024 年統合分析

順位	ユースケースカテゴリ	主要な指標・根拠
1	コード生成・ソフトウェア開発支援	高い採用率 (51% <sup>3</sup> )、開発における ChatGPT 利用 (70% <sup>2</sup> )、

		生産性向上効果 <sup>2</sup> 、事例 <sup>17</sup>
2	顧客サービスチャットボット・サポート	最高投資分野 (53% <sup>2</sup> )、高い採用率 (31% <sup>3</sup> )、一般的利用 (顧客コミュニケーション 33% <sup>2</sup> )、事例 <sup>2</sup>
3	コンテンツ生成 (テキスト、画像、音声等)	高い投資分野 (41% <sup>2</sup> )、主要ツールの存在 (ChatGPT, Canva <sup>1</sup> )、企業利用事例 <sup>17</sup>
4	エンタープライズサーチ・ナレッジ検索	高い採用率 (28% <sup>3</sup> )、企業利用事例 <sup>3</sup>
5	データ抽出・変換	高い採用率 (27% <sup>3</sup> )、企業利用事例 <sup>3</sup>
6	自動化された IT テスト	最も一般的な利用 (43% <sup>2</sup> )
7	会議要約・文書作成	高い採用率 (会議要約 24% <sup>3</sup> )、一般的利用 (文書作成 31% <sup>2</sup> )
8	マーケティングコンテンツ最適化・パーソナライズ	業界別ユースケース <sup>18</sup> 、パーソナライズ事例 <sup>19</sup>
9	人事 (HR) サポート	一般的な利用 (35% <sup>2</sup> )、事例 (履歴書スクリーニング <sup>19</sup> )
10	翻訳・ローカライゼーション	主要ツールの存在 (DeepL <sup>1</sup> )、企業利用事例 <sup>17</sup>

この 2024 年のベースラインは、GenAI が初期の興奮段階を経て、具体的な生産性向上や効率化を実現するツールとして企業に浸透し始めた状況を示している。特に、導入

が比較的容易で即効性のあるユースケース（コード支援、会議要約など）が高い採用率を示す一方で、より大きな変革をもたらす可能性のある領域（顧客サービス自動化など）には戦略的な投資が集中している。この投資と採用の間のギャップは、実装の複雑さや ROI 実現への課題を示唆しており、2025 年に向けてこれらの課題克服が焦点となることを予感させる。また、特定のプラットフォーム（ChatGPT など）が依然として市場の認知度や利用体験を牽引している一方で、企業は機能ベースでの戦略的活用を進めているという二面性も、この時期の特徴と言えるだろう。

### 3. 未来予測：2025 年の主要 GenAI ユースケース

GenAI 技術の急速な進化と企業導入の本格化に伴い、2025 年のユースケースは 2024 年から大きく変化すると予測される。このセクションでは、主要なトレンドを特定し、それに基づいて 2025 年のトップ 10 ユースケースを展望する。

#### 3.1 2025 年の主要予測トレンド

複数のアナリストレポートや調査から、2025 年の GenAI の進化を方向づけるいくつかの重要なトレンドが浮かび上がっている。

- **AI エージェントの台頭:** 2025 年には、AI が単なる指示待ちのツールから、人間の介入を最小限に抑えて自律的にタスクを計画・実行する「AI エージェント」へと進化することが予測されている<sup>5</sup>。Deloitte は、GenAI を利用する企業の 25% が 2025 年までに AI エージェントを導入し、2027 年には 50% に達すると予測している<sup>7</sup>。IDC も、AI エージェントが生産性向上だけでなく、ビジネスプロセスの自動化を可能にし、GenAI のユースケースを飛躍的に拡大させると指摘している<sup>10</sup>。より高度な自律性を持つ「エージェントティック AI」という概念も登場しており、金融業界などでの活用が期待されている<sup>6</sup>。
- **マルチモーダル AI の普及:** テキスト、画像、音声、動画といった複数のデータ形式（モダリティ）を統合的に処理・生成できるマルチモーダル AI の能力が向上し、その応用範囲が急速に拡大すると見られている<sup>5</sup>。Gartner は、2027 年までに GenAI ソリューションの 40% がマルチモーダルになると予測しており<sup>8</sup>、2025 年がその普及の起点となる可能性が高い。McKinsey も、主要な LLM が 2025 年 1 月までにマルチモーダル能力を獲得すると予測している<sup>11</sup>。これにより、より人間らしいコミュニケーション（顧客サポート）、高精度な診断支援（医療）、新たなエンターテインメント体験などが可能になる<sup>5</sup>。
- **LLM の高度化と特化:** 大規模言語モデル（LLM）自体の性能向上（推論能力、長文脈対応、幻覚（ハルシネーション）の抑制など）が継続する<sup>5</sup>。同時に、汎用的なモデルだけでなく、特定の業界（金融、製造、医療など）やビジネス機能（人事、

法務など) に特化して訓練・最適化された「ドメイン特化型モデル」の重要性が増すと予測される<sup>8</sup>。これにより、特定のユースケースにおける精度、信頼性、セキュリティ、文脈理解度が向上し、企業はより安心して基幹業務に GenAI を適用できるようになる。

- **実験から本格導入への移行:** 多くの企業が、2024 年までの概念実証 (PoC) やパイロット導入の段階を経て、2025 年には GenAI を実際の業務プロセスに組み込み、具体的なビジネス価値 (ROI) を追求するフェーズへと移行する<sup>3</sup>。これには、既存システムとの連携、ガバナンス体制の構築、従業員のスキルアップなどが伴う。「ポジティブな実用主義」へのマインドセットの変化が指摘されている<sup>22</sup>。
- **支出の急増とハードウェアへの注目:** GenAI への世界的な支出は 2025 年も大幅に増加し、Gartner は前年比 76.4%増の 6,440 億ドルに達すると予測している<sup>4</sup>。IDC も日本国内の GenAI 市場が 2024 年に 1,000 億円を超え、2028 年には 8,000 億円規模に成長すると予測している<sup>16</sup>。特に、AI 処理能力を搭載したサーバー、PC (AI-PC)、スマートフォンなどのハードウェアへの支出が全体の約 8 割を占めると予測されており<sup>4</sup>、デバイス上での AI 処理 (エッジ AI) の普及も進むと見られる<sup>7</sup>。
- **具体的なビジネス成果への焦点:** 2025 年の GenAI 活用は、より具体的なビジネス成果に直結する領域へとシフトしていく。ResearchAndMarkets.com のレポートでは、ターゲットマーケティング、顧客体験 (カスタマージャーニー)、製品開発、顧客サービス、オペレーション効率化といった分野での変革が予測されている<sup>26</sup>。特に、非構造化・構造化データの統合分析能力と、よりターゲットを絞ったマーケティングキャンペーンの作成能力が、今後 1 年間 (2025 年) で最も期待されるメリットとして挙げられている<sup>26</sup>。

### 3.2 2025 年のトップ 10 ユースケース予測

これらの予測トレンドを踏まえ、2025 年に主流となるであろう GenAI ユースケースを以下のように予測する。2024 年のリストと比較して、進化の度合いや新たなカテゴリの登場が特徴となる。

表 2 : GenAI 主要ユースケース トップ 10 - 2025 年予測

予測 順位	ユースケースカテゴリー	ランクを牽引する主要トレンド	関連予測・情報源
----------	-------------	----------------	----------

1	自律型顧客サービス エージェント	AI エージェント、 LLM 高度化	5
2	高度なコード生成・ ソフトウェア開発エ ージェント	AI エージェント、自 動コーディング、 LLM 高度化	3
3	インテリジェント・ プロセス・オートメ ーション (IPA) /ワ ークフロー内 AI エ ージェント	AI エージェント、 LLM 高度化	6
4	ハイパーパーソナラ イズド・マーケティ ング&セールス自動 化	AI エージェント、マ ルチモーダル AI、 LLM 高度化	19
5	マルチモーダルデー タ分析・インサイト 生成	マルチモーダル AI、 LLM 高度化	5
6	ドメイン特化型ナレ ッジマネジメント・ 検索	ドメイン特化、LLM 高度化	3
7	AI 駆動型製品設計・ 開発	マルチモーダル AI、 LLM 高度化	17
8	高度な予測分析・意 思決定支援	LLM 高度化、デー タ分析能力向上	19
9	自動化されたリスク 管理・コンプライア ンス	ドメイン特化、AI エ ージェント (金融 等)	6

10	パーソナライズされた教育・トレーニング	LLM 高度化、マルチモーダル AI	5
----	---------------------	--------------------	---

2025 年の予測ランドスケープは、二つの主要な方向性を示唆している。一つは、AI エージェントによる高度な自律化であり、これまで人間が行っていた複雑なワークフロー（顧客対応、開発プロセス、定型業務など）を AI が主体的に実行するようになる。もう一つは、マルチモーダル AI やドメイン特化型モデルによって、人間の創造性や分析能力をより高度なレベルで支援・拡張する方向性である。これは、GenAI が単にタスクを代替するだけでなく、人間との協働を通じて新たな価値を生み出す可能性を示している。

また、汎用的な AI から、特定の業務や業界のニーズに深く根差した、信頼性・精度の高いソリューションへの移行が加速する点も重要である。これは、企業が GenAI を単なる目新しい技術としてではなく、ビジネスの中核を担う戦略的ツールとして位置づけ、その導入効果を最大化しようとする動きの表れと言える。初期の探索段階で見られた幻覚（ハルシネーション）やセキュリティへの懸念<sup>2</sup>に対処するため、より信頼でき、統制のとれた AI 活用が求められるようになるだろう。

## 4. 比較分析：2024 年から 2025 年への進化のマッピング

2024 年の実績（ベースライン）と 2025 年の予測を比較することで、GenAI ユースケースの進化の方向性と性質がより明確になる。このセクションでは、ランキングの変化、新規参入と脱落の可能性、そして変革の本質について分析する。

### 4.1 トップ 10 ランキングの主要なシフト

2024 年から 2025 年にかけて、トップ 10 の顔ぶれと順位には顕著な変化が見られると予測される。

- **上昇が予測されるユースケース:**
  - **AI エージェント関連:** 2024 年の「顧客サービスチャットボット」や「コード生成支援」は、より自律性の高い「エージェント」へと進化し、ランキング上位を維持または上昇させると考えられる<sup>5</sup>。また、「インテリジェント・プロセス・オートメーション (IPA)」のような、エージェントが業務プロセス全体を自動化するカテゴリが新たに上位に登場する可能性が高い<sup>6</sup>。
  - **マルチモーダル応用:** 「マルチモーダルデータ分析」や、マルチモーダル技術を活用した「製品設計・開発」、「マーケティング&セールス自動化」などが重要性を増し、ランキングを上昇させるだろう<sup>5</sup>。

- **ドメイン特化型ソリューション:** 「ドメイン特化型ナレッジマネジメント・検索」や「自動化されたリスク管理・コンプライアンス」など、特定の業界や機能に最適化されたユースケースが、その高い精度と信頼性から評価を高めると予想される<sup>6</sup>。
- **ランキング維持・進化するユースケース:**
  - **コード生成:** 単なる支援 (Copilot) から、テスト自動化やパイプライン生成を含む、より広範な開発プロセスを担うエージェントへと進化し、引き続き上位を維持する<sup>3</sup>。
  - **顧客サービス:** 単純な応答チャットボットから、より複雑な問題解決やプロアクティブな対応が可能な自律型エージェントへと進化する<sup>5</sup>。
  - **コンテンツ生成:** 単体ツールから、マーケティング自動化やパーソナライズ戦略と統合された、より高度な機能へと進化する<sup>1</sup>。
- **相対的順位低下・統合の可能性:**
  - **単純な単機能ツール:** 2024 年に見られた特定の単機能ツール (例: 単純な背景除去) は、プラットフォームの標準機能に吸収されたり、より包括的なソリューションに統合されたりして、トップ 10 からは後退する可能性がある。
  - **基本的な要約・文書作成:** 会議要約や基本的な文書作成<sup>2</sup> は、より高度な AI エージェントの機能の一部として組み込まれ、独立したユースケースとしての順位は相対的に低下するかもしれない。

## 4.2 新規参入と潜在的な脱落

2025 年の予測リストには、2024 年には目立たなかった、あるいは明確なカテゴリとして認識されていなかったユースケースが新たに登場する。

- **新規参入候補:**
  - **インテリジェント・プロセス・オートメーション (IPA) /ワークフロー内 AI エージェント:** 業務プロセス全体を自律的に実行するエージェント<sup>6</sup>。
  - **マルチモーダルデータ分析・インサイト生成:** 複数種類のデータを統合的に分析し、新たな知見を引き出す<sup>5</sup>。
  - **自動化されたリスク管理・コンプライアンス:** 特に金融などの規制産業向け<sup>6</sup>。
  - **AI 駆動型製品設計・開発:** 設計案生成からシミュレーションまでを支援<sup>17</sup>。
- **脱落・統合の可能性:**
  - 2024 年のリストにあった特定のニッチなツール (例: Character.AI, JanitorAI) は、より汎用的なプラットフォームの機能向上や、新たなエージェント技術の登場により、トップ 10 からは外れる可能性がある。
  - 基本的な翻訳機能<sup>1</sup>も、多くのアプリケーションや AI エージェントに標準搭載されることで、独立したトップユースケースとしての地位は相対的に低下する

かもしれない。

### 4.3 変革の性質

2024 年から 2025 年にかけての進化は、単なる順位変動以上に、GenAI の活用方法における質的な変化を示している。

- **支援から自律へ:** 2024 年の「支援 (Copilot)」中心から、2025 年は AI が自ら判断し行動する「自動化・エージェント」へと重心が移る<sup>5</sup>。
- **テキスト中心からマルチモーダルへ:** 主にテキストベースだったインタラクションが、画像、音声、動画を含む多様なデータを扱えるようになる<sup>5</sup>。
- **汎用から特化へ:** 汎用的なツールやモデルから、特定の業界や業務ニーズに合わせて最適化されたソリューションへの需要が高まる<sup>8</sup>。
- **スタンドアロンから統合へ:** 個別のアプリケーションとして利用されるだけでなく、企業の基幹システムやワークフローに深く組み込まれるようになる<sup>22</sup>。

この進化の過程は、テクノロジー導入における典型的な成熟曲線を描いている。初期の熱狂とアクセスしやすいツールによる実験段階 (2024 年) から、より戦略的で、企業のコアな課題解決を目指した統合・応用段階 (2025 年) へと移行しているのである。2024 年に見られた実装上の課題 (スキル不足、データプライバシー、ROI の不確実性など<sup>2</sup>) を乗り越え、より信頼性が高く、管理可能で、具体的な価値を提供するソリューションへと進化していく過程が、この変革の本質と言える。

表 3 : GenAI 主要ユースケース トップ 10 比較 (2024 年 vs 2025 年予測)

ユースケースカテゴリ	2024 年 順位	2025 年 予測順位	変化	主要な進化的側面
コード生成・ソフトウェア開発支援/エージェント	1	2	↓	自律性の向上 (エージェント化)、適用範囲拡大
顧客サービスチャットボット・サポート/エージェント	2	1	↑	自律性の向上 (エージェント化)、問題解決能力向上

コンテンツ生成 (テキスト、画像、音声等)	3	(統合)	-	マーケティング自動化等へ統合、マルチモーダル化
エンタープライズサーチ・ナレッジ検索	4	(6 へ進化)	-	ドメイン特化、精度向上
データ抽出・変換	5	(統合/進化)	-	IPA やデータ分析の一部へ
自動化された IT テスト	6	(2 へ統合)	-	ソフトウェア開発エージェントの機能へ
会議要約・文書作成	7	(統合)	-	AI エージェントの機能の一部へ
マーケティングコンテンツ最適化・パーソナライズ	8	(4 へ進化)	-	ハイパーパーソナライズ、自動化、エージェント活用
人事 (HR) サポート	9	(圏外/統合)	↓	IPA や特定業務エージェントへ
翻訳・ローカライゼーション	10	(圏外/統合)	↓	アプリケーション/エージェントへの標準搭載
インテリジェント・プロセス・オートメーション (IPA)	-	3	New	AI エージェントによる業務プロセス全体の自動化

マルチモーダル データ分析・イ ンサイト生成	-	5	New	複数データ形式 の統合分析による 新たな知見
ドメイン特化型 ナレッジマネジ メント・検索	-	6	New	特定分野に最適 化された高精度 ナレッジ活用 (4 の進化)
AI 駆動型製品設 計・開発	-	7	New	設計・シミュレ ーション等への AI 活用
高度な予測分 析・意思決定支 援	-	8	New	より高度なデー タ分析に基づく 予測・判断支援
自動化されたリ スク管理・コン プライアンス	-	9	New	特定業界（金融 等）向けのリス ク・コンプライ アンス自動化
パーソナライズ された教育・ト レーニング	-	10	New	個別最適化され た学習体験の提 供

(注: 2025 年の順位と変化は予測に基づく。一部の 2024 年カテゴリは、2025 年にはより広範なカテゴリに統合・進化すると考えられるため、「統合」「進化」と表記)

この比較表は、GenAI ユースケースが単機能のツールから、より統合され、自律的で、特定のビジネス課題解決に特化したソリューションへと進化していく明確なトレンドを示している。

## 5. 変化の根本的要因

予測される GenAI ユースケースの進化は、単一の要因ではなく、技術、企業導入、市場力学、そして新たな応用分野の出現といった複数の力が相互に作用した結果である。

## 5.1 技術的進歩

GenAI 能力の基盤となる技術の急速な進歩が、ユースケース進化の最も直接的な推進力となっている。

- **LLM の成熟:** 大規模言語モデルは、より高度な推論能力、より長い文脈（コンテキストウィンドウ）の処理能力<sup>11</sup>、そして不正確な情報生成（ハルシネーション）の低減<sup>8</sup>を実現しつつある。これにより、より信頼性が高く、複雑なタスクに対応可能なアプリケーションの開発が可能になっている。
- **マルチモーダル能力:** テキスト、画像、音声、動画といった異なる種類のデータをネイティブに理解し、統合的に処理する能力<sup>5</sup>は、これまでにない新しいユースケース（例：画像を用いた顧客サポート、動画コンテンツの自動生成、医療画像の分析支援）を切り拓いている。
- **AI エージェントアーキテクチャ:** AI が自ら目標を設定し、計画を立て、外部ツールやシステムと連携しながらタスクを遂行するための技術的枠組み<sup>5</sup>が開発されている。これが、2025年に予測される自律型エージェントの台頭を支えている。
- **特化技術:** 特定のドメイン知識を学習させたり、特定のタスクに合わせてモデルを微調整（ファインチューニング）したりする技術<sup>8</sup>が向上し、汎用モデルでは達成困難だった高い精度や専門性が実現可能になっている。

## 5.2 企業導入の成熟

企業側での GenAI に対する取り組み方が変化していることも、ユースケースの進化を後押ししている。

- **スケーリングへの移行:** 初期の実証実験やパイロット導入（PoC）から、全社的な展開や本番環境での運用へと移行する企業が増加している<sup>3</sup>。ISG の調査では、企業が導入する GenAI アプリケーションの数は、2025 年末までに平均 151 から 356 へと倍増すると予測されている<sup>2</sup>。
- **ROI と価値への焦点:** 初期投資フェーズを経て、具体的なビジネス価値や投資対効果（ROI）を実証することへのプレッシャーが高まっている<sup>3</sup>。実験的な試みから、「ポジティブな実用主義」へとマインドセットが変化し<sup>22</sup>、資金提供されるユースケースは効率性や収益性向上を目的とするものが中心となっている<sup>2</sup>。
- **PoC から実践へ:** PoC で有効性が確認されたユースケースを、実際の業務プロセスに統合し、定着させる動きが加速している<sup>23</sup>。
- **障壁への対処:** スキル不足（最大の障壁として 56%が指摘<sup>2</sup>）、データプライバシーとセキュリティ（39%<sup>2</sup>）、既存インフラとの連携（39%<sup>2</sup>）、チェンジマネジメント（35%<sup>2</sup>）といった導入障壁への対策が進んでいる。外部の専門知識を活用するため、マネージドサービスプロバイダー（MSP）を利用する企業も増加している

(65%<sup>2)</sup>。

### 5.3 市場力学

活発な市場環境も、イノベーションと普及を加速させている。

- **大規模な投資と支出:** GenAI 関連スタートアップへの投資<sup>28</sup>や、企業による GenAI への支出が急増しており<sup>3</sup>、AI は依然として魅力的な投資テーマと見なされている<sup>21</sup>。
- **競争環境:** OpenAI、Google、Anthropic、Meta といった大手 LLM プロバイダー間の激しい競争<sup>11</sup>や、アプリケーション開発者間の競争が、技術革新のペースを速めている。オープンソース LLM の登場<sup>8</sup>は、技術へのアクセスを民主化し、さらなるイノベーションを促進している。既存企業がスタートアップによって代替される可能性も指摘されている<sup>3</sup>。
- **エコシステムの発展:** GenAI を支えるインフラ (GPU、データセンター<sup>4</sup>)、モデル管理プラットフォーム<sup>28</sup>、そしてコンサルティング、インテグレーション、マネージドサービスといった関連サービス市場<sup>23</sup>が成長している。LLM の運用管理手法である「LLM Ops」が新たな標準として確立されつつある<sup>6</sup>。

### 5.4 新たな応用分野の出現

GenAI の能力向上に伴い、これまで適用が難しかった分野への応用も進んでいる。

- **業界特化:** 製造業<sup>19</sup>、ヘルスケア<sup>27</sup>、金融サービス<sup>6</sup>、小売<sup>19</sup>など、各業界固有の課題解決に向けた GenAI 活用が進んでいる。
- **プロセス自動化:** AI エージェントを活用し、単一タスクだけでなく、複数のステップからなる複雑なビジネスワークフロー全体を自動化する試みが始まっている<sup>2</sup>。
- **人間と AI の協働強化:** AI を単なる自動化ツールとしてではなく、人間の創造性、意思決定、問題解決能力を高めるパートナーとして活用するアプローチが模索されている<sup>5</sup>。

これらの要因は独立して存在するのではなく、相互に強く関連し合い、フィードバックループを形成している。例えば、技術的進歩 (LLM の高性能化) が新たなユースケース (高度なチャットボット) を可能にし、企業がその可能性 (ROI) に注目して導入・投資 (企業導入・市場力学) を行う。その投資がさらなる研究開発を促進し、技術がさらに進化 (AI エージェント) するという循環が、2024 年から 2025 年にかけて見られる急速な進化の背景にある。

また、注目すべきは、技術が先行して可能性を提示する「テクノロジープッシュ」だけでなく、企業の現場からの要求 (ROI、セキュリティ、信頼性、特定業務への適合性な

ど)が技術開発の方向性を定める「マーケットプル」の影響が増している点である。初期の汎用モデルに対する幻覚やプライバシーへの懸念<sup>2</sup>を受け、2025年に向けてはドメイン特化型モデル<sup>8</sup>や管理運用手法(LLM Ops<sup>6</sup>)への関心が高まっている。これは、企業がGenAIを本格的に業務利用する上で、実用的で信頼できるソリューションを求めていることの表れであり、市場のニーズが技術開発の優先順位に影響を与え始めていることを示唆している。

## 6. コアとなる GenAI 能力の役割

トップユースケースの進化は、その基盤となる特定の GenAI 能力(テキスト生成、画像生成、コード生成、データ分析など)の向上と融合によって支えられている。

### 6.1 テキスト生成・理解

テキスト処理能力は、依然として多くの GenAI アプリケーションの中核をなしているが、その質と応用範囲は深化している。

- **進化の方向性:** 単純なコンテンツ作成<sup>2</sup>や要約<sup>3</sup>から、より文脈を理解したニュアンスのあるコミュニケーション(チャットボットからエージェントへ<sup>5</sup>)、複雑なレポートや技術文書の自動生成<sup>5</sup>、そして構造化・非構造化データとの高度な対話<sup>26</sup>へと進化している。LLM Ops における設定や管理<sup>6</sup>、文書作成支援<sup>2</sup>においても基盤技術として活用されている。
- **ユースケースへの影響:** この進化により、顧客対応エージェントはより人間らしい対話が可能になり、ナレッジ検索はよりの確な回答を提供できるようになる。また、レポート作成や文書管理の効率が大幅に向上する。

### 6.2 画像・音声・動画(マルチモーダル)生成・分析

マルチモーダル能力の向上は、GenAI の応用範囲をテキスト中心の世界から大きく広げている。

- **進化の方向性:** 背景除去<sup>1</sup>やデザイン支援<sup>1</sup>といった個別のツールから、テキスト、画像、音声、動画を統合的に扱えるネイティブなマルチモーダルモデルへと進化している<sup>5</sup>。
- **ユースケースへの影響:** 顧客は製品の問題点を画像で伝えられるようになり<sup>5</sup>、メーカーは多様な形式のコンテンツ(動画広告など)を効率的に生成できる<sup>2</sup>。医療分野では画像診断支援<sup>5</sup>、製造業では設計図や実物画像の分析など、新たな応用が可能になる。2025年に予測される多くの先進的ユースケース(例: AI 駆動型製品設計、高度な顧客体験)は、このマルチモーダル能力に依存している。

### 6.3 コード生成

ソフトウェア開発における GenAI の役割は、単なる補助から、より積極的な関与へと変化している。

- **進化の方向性:** 開発者のコーディングを支援する「コパイロット」<sup>2</sup>から、テストコード生成<sup>2</sup>、デバッグ支援<sup>17</sup>、さらには開発パイプラインの自動生成<sup>3</sup>や、より広範な開発タスクを自律的に実行する可能性のある「自動コーディング」エージェント<sup>6</sup>へと進化している。生産性向上効果は非常に大きいと評価されている（30-42%向上<sup>2</sup>）。
- **ユースケースへの影響:** 開発スピードの向上、コード品質の改善、プログラミング学習の促進<sup>5</sup>に貢献する。将来的には、ソフトウェア開発プロセスそのものを変革する可能性がある。

### 6.4 データ分析・統合

膨大なデータを処理し、そこから価値ある洞察を引き出す能力は、GenAI の重要な強みであり、さらに高度化している。

- **進化の方向性:** 単純なデータ分析から、多様な形式（テキスト、数値、画像など）の複雑なデータセットを統合的に分析し、人間では見つけにくいパターンやインサイトを抽出する能力<sup>5</sup>へと進化している。
- **ユースケースへの影響:** エンタープライズサーチやナレッジ検索の精度向上<sup>3</sup>、より正確な需要予測や市場トレンド分析（予測分析<sup>19</sup>）、データに基づいた迅速な意思決定支援<sup>20</sup>、そしてリスク評価や不正検知（リスク管理<sup>6</sup>）などを可能にする。特に、ドメイン特化型モデルや AI エージェントが効果的に機能するためには、高度なデータ分析・統合能力が不可欠である。

これらのコア能力は、独立して進化するだけでなく、相互に融合し始めている点が重要である。例えば、2025 年に予測される高度な顧客サービスエージェントは、顧客からのテキスト（テキスト理解）や画像（画像分析）による問い合わせを理解し、過去の購買履歴（データ分析）を参照しながら、最適な回答（テキスト生成）を生成し、場合によっては音声（音声合成）で応答するといった、複数の能力を組み合わせた動作が想定される<sup>5</sup>。同様に、AI 駆動型の製品設計では、仕様書（テキスト理解）、コンセプト画像（画像生成）、市場データ（データ分析）、プロトタイプコード（コード生成）などが連携して利用される可能性がある<sup>17</sup>。この能力の融合こそが、2025 年に予測される、より複雑で統合された、自律的なユースケースを実現するための鍵となる。

## 7. 戦略的インプリケーションと今後の展望

GenAI ユースケースの急速な進化は、企業にとって大きな機会であると同時に、戦略的な対応を迫るものでもある。このセクションでは、分析結果から導かれる主要な示唆と推奨事項、そして 2025 年以降の展望について述べる。

## 7.1 意思決定者への主要な示唆

- **変化の加速と AI の自律化・統合化:** GenAI の進化は加速しており、単なるツールから、より自律的で業務プロセスに統合された存在へと変化していることを認識する必要がある。
- **差別化要因の変化:** 基盤となる AI 能力がコモディティ化する可能性がある中で、競争優位性は、特定の業界知識（ドメイン専門性）や、既存システムとのシームレスな統合、そして独自のデータ活用によってもたらされる可能性が高い。
- **データ、ガバナンス、セキュリティの重要性:** AI エージェントやマルチモーダルデータの活用が進むにつれて、データ品質の確保、厳格なガバナンス体制の構築、そしてセキュリティとプライバシーの保護が、これまで以上に重要になる<sup>21</sup>。
- **人材と組織への影響:** より高性能な AI との協働が求められるようになり、従業員のリスキリングやアップスキリング、そして AI 導入に伴う組織変革への対応が不可欠となる<sup>11</sup>。

## 7.2 推奨事項

予測される変化に対応し、GenAI の可能性を最大限に引き出すために、企業は以下の戦略的行動を検討すべきである。

- **AI エージェントへの準備:** 自社の業務プロセスの中で、AI エージェントによる自動化に適したタスクやワークフローを特定し、関連するリスクを評価する。データ管理、セキュリティ、ガバナンスの要件を定義し、まずは低リスクのユースケースから人間による監視の下で導入を開始することを検討する<sup>6</sup>。
- **マルチモーダル機会の探求:** テキスト、画像、音声、動画といった多様なデータを組み合わせることで、顧客エンゲージメント、製品開発、社内コミュニケーションなどにどのような新たな価値を創出できるかを調査・検討する<sup>5</sup>。
- **統合と特化への注力:** スタンドアロンツールの導入に留まらず、GenAI を基幹業務ワークフローへ統合することを優先する。重要な業務領域においては、汎用モデルよりも高い精度や信頼性を提供するドメイン特化型モデルの開発または導入を検討する<sup>8</sup>。
- **データ基盤とガバナンスへの投資:** 高度な AI 活用を支えるためのデータインフラを強化し、AI の倫理的かつ責任ある利用を担保するための堅牢なガバナンスフレームワークを構築・運用する<sup>21</sup>。データプライバシーとセキュリティに関する懸念には、積極的に対処する<sup>2</sup>。

- **人間と AI の協働促進:** AI を効果的に活用し、AI が組み込まれたプロセスを管理するために必要なスキルを特定し、従業員の育成計画を策定・実行する<sup>11</sup>。AI 導入に伴う変化への抵抗を乗り越えるためのチェンジマネジメント戦略を重視する<sup>2</sup>。
- **LLM Ops の導入:** 大規模言語モデルのライフサイクル（開発、デプロイ、監視、改善）を効率的かつ効果的に管理するための運用体制（LLM Ops）を確立し、AI システムのパフォーマンス、信頼性、コスト効率を確保する<sup>6</sup>。

### 7.3 2025 年以降の展望

2025 年のトレンドは、さらに長期的な GenAI の進化の方向性を示唆している。AI の自律性はさらに高まり、特定のタスクだけでなく、より広範な目標達成に向けて自己判断で行動するようになる可能性がある。人間と AI の関係は、単純な指示・実行から、より深いレベルでの協働・共創へと進化していくかもしれない。汎用人工知能（AGI）につながるようなブレークスルーの可能性も議論される中で、AI の能力向上に伴う倫理的な課題、規制の必要性、そして社会全体への影響についての議論は、今後ますます重要になるだろう<sup>17</sup>。

結論として、2025 年に予測される GenAI の進化は、技術的な可能性だけでなく、それを活用する組織側の準備状況（戦略、人材、ガバナンス、変革管理）によって、その成否が大きく左右される。技術の急速な進歩に追随しつつ、自社のビジネス目標達成に向けて GenAI を戦略的に導入・活用できるかどうか、今後の競争力を決定づける重要な要素となるだろう。

### 引用文献

1. 2024 年に人気を博した AI ツールトップ 10-- “圧倒的勝者”に続くものは？ - ZDNET Japan, 4月 14, 2025 にアクセス、  
<https://japan.zdnet.com/article/35227595/>
2. GenAI Market Report: 10 Huge ROI, Top Use Cases, AI Costs And ..., 4月 14, 2025 にアクセス、  
<https://www.crn.com/news/ai/2024/genai -market-report -10-huge-roi-top-use-cases-ai-costs-and-benefits-results>
3. 2024: The State of Generative AI in the Enterprise - Menlo Ventures, 4月 14, 2025 にアクセス、  
<https://menlovc.com/2024 -the-state-of-generative-ai-in-the-enterprise/>
4. 世界の生成 AI 支出、2025 年は 76.4%増か“AI 機能”搭載のデバイスが普及 ガートナー調査, 4月 14, 2025 にアクセス、  
<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2504/03/news180.html>
5. 2025 年注目の生成 AI トレンド 3 選を紹介！ 第 1 位は？ | クラス ..., 4月 14, 2025 にアクセス、  
<https://classmethod.jp/articles/2025 -trend-ai/>
6. 2025 年「AI 5 つの進化予測」、激変する“次世代”の AI エージェントや ..., 4月

- 14, 2025 にアクセス、 <https://www.sbbi.jp/article/fj/154579>
7. Deloitte 2025 Predictions Report 'Generative AI: Paving the Way for ...', 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www2.deloitte.com/us/en/pages/about-deloitte/articles/press-releases/deloitte-technology-media-telecom-2025-predictions.html>
  8. ガートナー、「生成 AI のハイプ・サイクル：2024 年」を発表--2027 年までに生成 AI の 40%がマルチモーダルに - ZDNET Japan, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://japan.zdnet.com/article/35223718/>
  9. Gartner、2025 年の世界の生成 AI 支出が 6,440 億ドルに達すると予測, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.gartner.co.jp/ja/newsroom/press-releases/pr-20250402-genai-spending>
  10. 国内パブリッククラウドサービス市場予測を発表 - IDC, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.idc.com/getdoc.jsp?containerId=prJPJ53205625>
  11. AI in the workplace: A report for 2025 | McKinsey, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.mckinsey.com/capabilities/mckinsey-digital/our-insights/superagency-in-the-workplace-empowering-people-to-unlock-ais-full-potential-at-work>
  12. Gartner、「生成 AI のハイプ・サイクル：2024 年」を発表 - 2027 年 ..., 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.gartner.co.jp/ja/newsroom/press-releases/pr-20240910-genai-hc>
  13. 今後 5 年以内に大半の生成 AI 技術が「主流の採用」へ～ガートナー・ジャパンが「生成 AI のハイプ・サイクル：2024 年」を発表 - アイマガジン | iMagazine, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.imagazine.co.jp/gartner-j-generative-ai-2024/>
  14. 2024 年 国内 DX の産業分野別動向分析：Generative AI（生成系 AI）導入企業へのアプローチ - IDC, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.idc.com/jp/research/report-list?document=JPJ50711824>
  15. 2024-04-24 Generative AI Japan ユースケース・技術動向研究会 4 月-AI が取り巻く社会変化 part 1/3 -, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://automation.jp/research-report/2024-04-24-generativeaijapanusecasesresearchpart1of3>
  16. 国内生成 AI 市場は今後 5 年で 8,000 億円規模への成長を予測～IDC Worldwide AI and Generative AI Spending Guide を発行～, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.idc.com/getdoc.jsp?containerId=prJPJ52722724>
  17. 【2024 年】国内外の生成 AI 動向まとめ | 市場規模や展望も紹介 - メタバース総研, 4 月 14, 2025 にアクセス、 [https://metaversesouken.com/ai/generative\\_ai/trend/](https://metaversesouken.com/ai/generative_ai/trend/)
  18. Generative AI Guide: Top Use Cases, Benefits & Applications in 2025 (Complete Overview), 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://addepto.com/blog/the-best-generative-ai-use-cases-in-2024/>
  19. 50+ Gen AI Use Cases for the Top 10 Industries in 2024, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.lyzr.ai/blog/gen-ai-use-cases-for-top-industries/>

20. Top 10 Generative AI Use Cases for 2024 - IgniteTech, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://ignitetech.ai/about/blogs/top-10-generative-ai-use-cases-2024>
21. 2025 年 AI と IT 市場の未来像と最新動向 - SYPartners, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://syp.vn/jp/article/2025-top-6-IT-and-AI-trends>
22. State of Generative AI in the Enterprise 2024 | Deloitte US, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www2.deloitte.com/us/en/pages/consulting/articles/state-of-generative-ai-in-enterprise.html>
23. 国内 IT サービス市場予測を発表～AI 活用の実践とユースケース拡大が ..., 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.idc.com/getdoc.jsp?containerId=prJPJ53253625>
24. IDC、国内 IT サービス市場予測を発表 ～2024 年から 5 年間で年間平均成長率は 6.6%、AI 活用の実践とユースケース拡大が市場成長を促進 - アイマガジン | i Magazine, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.imagazine.co.jp/idc-report-250313/>
25. 世界では AI を活用した価値創出に焦点／ガートナー、2025 年のデータ&アナリティクスのトレンドを発表 - MarkeZine (マーケジン) , 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://markezine.jp/article/detail/48693>
26. Five Ways Generative AI Will Shape the Future of - GlobeNewswire, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://www.globenewswire.com/news-release/2025/04/10/3059543/28124/en/Five-Ways-Generative-AI-Will-Shape-the-Future-of-Industries.html>
27. Generative AI Use Cases Across Industries: A Strategic 2025 Report - HatchWorks, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://hatchworks.com/blog/gen-ai/generative-ai-use-cases/>
28. Generative AI Market Report 2025-2030 - IoT Analytics, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://iot-analytics.com/product/generative-ai-market-report-2025-2030/>
29. 生成 AI 業界の真の勝者：2024 年最新動向と主要プレーヤー 10 社の徹底解析 - note, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://note.com/brightiers/n/n7aa7bf175e20>
30. 生成 AI が実現する次世代インテリジェント製造, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://activate.fujitsu/-/media/Project/Fujitsu/Fujitsu-Activate/key-technologies-article/ta-intelligent-manufacturing-generative-ai-20250110/ta-intelligent-manufacturing-generative-ai-20250110-jp.pdf?rev=303da8909a964060abe3e31d16e5f674&hash=ECAC76034FA6F81D95423019DA726EDF>
31. 2025 年に注目すべき 10 の人工知能トレンド - Botpress, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://botpress.com/ja/blog/top-artificial-intelligence-trends>
32. 生成 AI の影響、マシン ID、人材ケアなど、2025 年のサイバーセキュリティ 6 大トレンド ガートナー, 4 月 14, 2025 にアクセス、 <https://it.impress.co.jp/articles/-/27549>